

参考文献

- 『生誕140年 与謝野晶子展 こよひ逢ふ人みなうつくしき』
公益財団法人神奈川文学振興会/編 県立神奈川近代文学館
2018年
- 『与謝野晶子歌集 改版』
与謝野晶子/著 岩波書店 1985年
- 『木俣修全歌集』
木俣修/著 明治書院 1985年
- 『現代短歌大事典』
篠弘(ほか)/監修 三省堂 2000年
- 『岩波現代短歌辞典』
岡井隆/監修 岩波書店 1999年
- 『現代短歌の鑑賞101』
小高賢/著 親書館 1999年
- 『今こそよみたい近代短歌』
長澤ちづ(ほか)/編 翰林書房 2012年
- 『大人の短歌入門—すぐ作る、必ず作る、完璧に創る—』
秋葉四郎/著 角川文化振興財団 2017年
- 『今日から始める楽しい短歌入門』
江田浩司/著 有楽出版社 2013年
- 『大西民子 歳月の贈り物』
田中あさひ/著 短歌研究社 2015年
- 『まぼろしは見えなかった』
さいたま市大宮図書館/編 さいたま市教育委員会 2007年

2019.9.16 発行

さいたま市立大宮図書館

さいたま市大宮区吉敷町 1-124-1

電話 048-643-3701

企画展 明星派の世界 ～北原白秋から大西民子への系譜～

1	雑誌「明星」(復刻版 創刊号・8号)
2	与謝野晶子の第一歌集『みだれ髪』
3	短冊「雲の峰 ありとあらゆる 蝉の身に 熱の発して 鳴きいづるころ」
4	平野万里が創刊した雑誌「冬柏」創刊号
5	北原白秋が創刊した雑誌「多磨」第十卷六月号(五周年記念号)
6	北原白秋の詩集『邪宗門』
7	鷺の群 渡りをへたる 野の上は ただうすうすに 青き雪照 『高志』より
8	木俣修が創刊した雑誌『形成』創刊号
9	原稿「挽歌を作りつづけた三十年」
10	大西民子が創刊した雑誌「波濤」創刊号

常設展 大西民子の生い立ち

1	民子の第二歌集『不文の掟』
2	色紙「日の暮れに 帰れる犬の 身顛ひて 遠き沙漠の 砂撒き散らす」
3	原稿「円柱は 何れも太く 妹を しばしわれの 視野から奪ふ」
4	原稿「ふり返る 視野昏れてみて ゆるやかに 細く女滝は 落ちてゐにけり」
5	木俣修歌文鎮

「明星」の歌人たち

よさのてっかん ・与謝野鉄幹

1873(明治6)年、現・京都府京都市左京区ひろしに生まれる。本名・寛。

1893(明治26)年、落合直文おちあいなおぶみ(歌人・国文学者)の家に住み込みながら、短歌結社「あさ香社」の中心となって活動する。

1899(明治32)年、東京新詩社とうきょうしんししゃを創設、翌年機関誌の「明星」を創刊。

内縁の妻・林滝野はやしたきのとの間に子供を授かるが、滝野の実家との話し合いがうまくいかず別れ話の渦中はやくにあったころ、晶子と出会い後に結婚する。1935(明治10)年、永眠。

よさのあきこ ・与謝野晶子

1878(明治11)年、現・大阪府堺市しに生まれる。本名・志よう。

「明星」が創刊されると、第2号から作品を発表するようになり、1900(明治33)年、大阪に来ていた鉄幹と初めて出会う。1901(明治34)年、堺を飛び出した晶子は、鉄幹の元へ身を寄せる。同年8月に『みだれ髪』を刊行し、鉄幹と結婚。

1904(明治37)年に日露戦争に従軍している弟を思い「君死にたまふことなか勿れ」を「明星」に発表し賛否両論を巻き起こす。

1921年(大正10)年文化学院ぶんかがくいんの創設に参加し、初代学監に就任。日本で最初の男女共学校となった。1942(昭和17)年、永眠。

ひらのぼんり ・平野万里

1885(明治18)年、現・埼玉県さいたま市西区(緑区という説もあり)に生まれる。本名・久保ひさやす。6歳のころ東京へ転居し、平野家もりおうがいが森鷗外もりの息子・於菟おとを引き取り養育したため、万里と於菟は兄弟同然に育った。

森鷗外の紹介で与謝野鉄幹を知り、1901(明治34)年、東京新詩社に

入る。雑誌「スバル」の第1号編集にも参加し、1930(昭和5)年には新詩社の機関紙「冬柏とうはく」を創刊する。のちに第三次「明星」の顧問になるが、創刊号発刊直前の1947(昭和22)年、急逝。

きたはらはくしゅう ・北原白秋

1885年(明治18)年、現・福岡県柳川市やながわしに生まれる。本名・隆吉。早稲田大学高等予科文科(英文科)に入学し、「明星」で歌を発表するようになる。

1909年(明治42)年、「スバル」に参加、またこの年詩集『邪宗門じゃしゅうもん』を発表し脚光を浴びる。1913(大正2)年、28歳の時に歌集『桐の花きりはな』を刊行し、歌人として高い評価を得る。

以降、詩や短歌だけでなく童謡・小説・随筆等など幅広く作品を発表するようになる。1942(昭和17)年、永眠。

きまたおさむ ・木俣修

1906(明治39)年、現・滋賀県愛荘町あいしやうちょうに生まれる。本名・修二しゅうじ。

1926(大正15)年、東京高等師範学校とうきょうこうとうしはんがっこうに入学する。1928(昭和3)年に北原白秋と初めて会い、白秋が創刊した雑誌「香蘭こうらん」に参加。宮城や富山の学校で教職に就きながら、歌人としての活動をしていた。

戦後は、昭和女子大学等で教授も務め、1973(昭和48)年に紫綬褒章を受章。1983(昭和58)年、永眠。

いしかわたくぼく ・石川啄木

1886(明治19)年、現・岩手県盛岡市はじめに生まれる、本名・一。盛岡中学校に成績優秀で入学したが、1902(明治35)年10月、「明星」に初めて歌が掲載され、同月末に中学校を中退。

執筆活動をしながら教員や新聞記者など職を転々とし、北海道に住んでいたこともあった。1912(明治45)年、永眠。